

#### D. 考察

1999年以降から現在にかけ北米太平洋岸で集団感染を起こしている高病原性クリプトコックス症は、従来の*C. gattii*株とは遺伝子型を異にする新たな株 (subtype; VGIIa, VGIIb, VGIIc) によるいわゆる新興感染症であり、分離菌の極めて強い病原性、流行地域の拡大傾向などが報告されている。我が国でもすでにこの地域への渡航歴のない日本人クリプトコックス症患者から、北米型と同じVGIIa型が分離されたことは、本症に対する早急な対策を講じる必要性をもたらした。

日本で分離されたVGIIa型株は北米から侵入してきたのか、であれば輸入経路は何か、という問題は当然解決しなければならない問題点であるが、日本にすでにこの*C. gattii*株が生息しているのか否かも速やかに調査する必要がある項目である。

今回の我々の検討では、西日本、東日本のそれぞれある1地点から分離された菌株を対象としたに過ぎないが、カナダでのアウトブレイクが始まる前後での分離株を対象とすることができた。結果として、今回は*C. gattii*株は1株も同定されず、従来より報告されているように、日本で臨床分離されるクリプトコックス属のほとんどは血清型Aの*C. neoformans*であることを裏付ける結果であった。

しかし、今回の検討は日本国内の点での検討に過ぎず、また学会等ではVGIIa型ではないものの*C. gattii*株によるクリプトコックス症の症例が近年報告されるなど、今後は継続的かつ全国的なサーベイランスを行う必要がある。

#### E. 結論

我が国で保管されていたクリプトコックス株69株についてその血清型を検討した結果、*C. gattii*株は検出されなかった。今後も更なる規模での検討が強く望まれる。

#### F. 健康危険情報

- 1) カナダ・バンクーバー島周辺ならびに米国太平洋岸を中心とした高病原性クリプトコックス症の集団感染事例、ならびにこれら地域への旅行者での発病。
- 2) 上記地域への渡航歴のない日本人におけるアウトブレイク型*C. gattii*株 (強毒型) によるクリプトコックス症の発生。

#### G. 研究発表

##### 論文発表

1. Nagi M, Nakayama H, Tanabe K, Bard M, Aoyama T, Okano M, Higashi S, Ueno K, Chibana H, Niimi M, Yamagoe S, Umeyama T, Kajiwara S, Ohno H, Miyazaki Y. Transcription factors CgUPC2A and CgUPC2B regulate ergosterol biosynthetic genes in *Candida glabrata*. *Genes Cells* 16: 80-89, 2011.
2. Kaneko Y, Ohno H, Kohno S, Miyazaki Y. Micafungin alters the expression of genes related to cell wall integrity in *Candida albicans* biofilms. *Jpn J Infect Dis* 63: 355-357, 2010.
3. 大野秀明. カンジダ属による心血管系感染の治療.IDSAガイドライン真菌症治療のUP-TO-DATE (河野 茂編)、医薬ジャーナル社、p163-168、大阪、2010.

学会発表

1. 梅山 隆、大野秀明、棚町千代子、橋本好司、佐川公矯、田辺公一、山越 智、宮崎義継. 福岡県筑後地区周辺におけるクリプトコッカス症多発発生例の疫学的検討. 第22回日本臨床微生物学会総会、岡山、2011.
2. 大野秀明. ガイドラインをふまえた中枢神経系真菌感染症の治療法. 第17回新潟神経疾患研究会、新潟、2010.
3. 大野秀明. 自然環境と深在性真菌症-地域流行型真菌症も含めて-. 第8回三菱化学メディエンス FORUM'10、東京、2010.

H. 知的財産権の出願・登録状況

特記事項なし

